

主を呼ぼう

詩篇 145篇

すべて主を呼ぶ者、誠をもって主を呼ぶ者に主は近いのです。(18)

この詩はいわゆる「いろは歌」形式で、各節の最初の文字がヘブル語のアルファベット順になつています。真の王である神が支配される神の国の様子を理想的に描いています。

詩人がほめたたえる主は、恵みと憐れみに満ち、必要な日々の糧を与えてくださるお方です。「あなたは時にしたがって彼らに食物を与えられます」(15)。何よりも大きな恵みは、主の助けを呼び求める私たちの近くに主はいてくださるということです。「すべて主を呼ぶ者、誠をもって主を呼ぶ者に主は近いのです」。わたしたちが真実な思いで主を呼び求めるとき、主はわたしたちの近くにおられ、その叫びに耳を傾けてくださると約束されています。これこそ主の民とされた者たちの特権です。この真理はすでにモーセによつて語られています。「われわれの神、主は、われわれが呼び求める時、つねにわれわれに近くおられる。いずれの大きいなる国民に、このように近くおる神があるであろうか」(申命記四7)。

わたしたちの近くにおられる主を呼び求める礼拝の日を迎えました。兄弟姉妹とともに、真実をもって主を呼ぶ日です。大きな問題が頭上を覆い、主が遠くに行つてしまわれたように感じるときも、この約束の言葉を信じて主を呼ぼうではありませんか。「すべて主を呼ぶ者、誠をもって主を呼ぶ者に主は近いのです」。